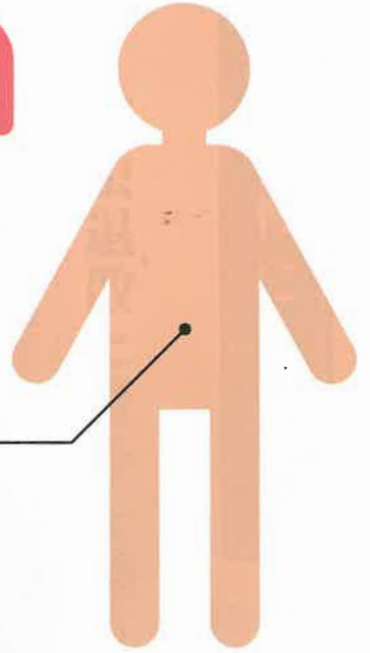


臓器のはなし



今月は 腸の内視鏡検査

苦痛など伴うも がん早期発見への一助

**便潜血検査が陰性でも
安心はできない**

便潜血検査は、便に血が混じっていないかを調べる検査。がんやポリープがあると、便が腸内を移動する際に組織がこすれて出血を起こすため、大腸がんの発症リスクを判定できます。検査結果が陽性なら、大腸カメラ(内視鏡)による精密検査を

受ける流れになるでしょう。

ところが、がんがあったとしても便潜血検査で陽性とは限りません。大腸がんがあつて1回の検査で陽性になる割合は、60%といわれています。2回検査を行うと85%まで上がりますが、100%ではありません。だから、陰性でも腸の内視鏡検査を行つたら、ポリープが見つかったというケースがあるのです。

がんになる確率は年齢を重ねれば上がるので、中高年の方には、この検査をおすすめしたいところです。ただ胃カメラに比べると、リスクの高い検査になります。

まず腸の中を空っぽにしなければいけないので、食事の制限や大量の下剤を飲まなければなりません。下剤の副作用として腹痛、脱水、血圧低下などの可能性もあります。そして、お尻からカメラを入れる精神的な負担もあるでしょう。

**気がかりなら毎年、
健康なら2〜3年が目安**

検査自体も、胃カメラの場合は基本的に真つすくな食道を通すのに対して、腸の内視鏡検査の場合は、ブ

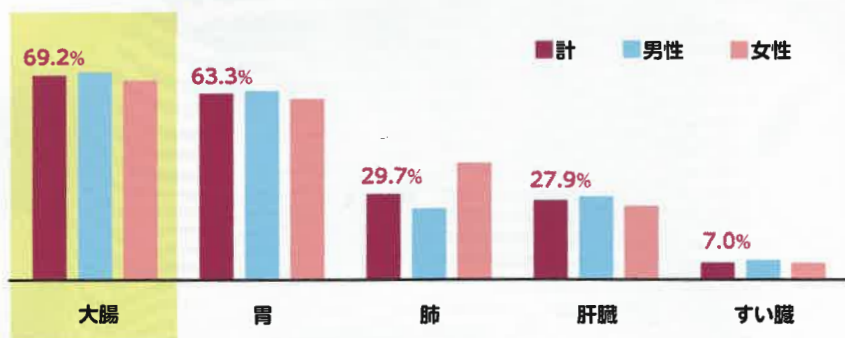
ネグネと曲がった腸にあわせて、うまくカメラを挿入しないと腸がねじれたり、たわんで痛みが出ます。めつたに起きないといわれていますが、腸の壁が傷ついて出血したり、見つけたポリープを切除する際に壁に穴が開いてしまう可能性も。

カプセル型の内視鏡は口から飲み込み腸管内部を進みながら小型カメラで撮影するので、小腸も観察でき精神的な負担は少ないのですが、腸に狭窄があると取り出すため、手術になるリスク等もあります。

リスクや身体、費用の負担を含めて考えると、腸の内視鏡検査をどのタイミングで受ければいいのかは悩むどころ。たとえば家族や親戚に大腸がんの方が多かったり、悪性のポリープがでやすい人なら、年1回検査を受けるべきだと思います。ただ、がんになりやすい家系ではなく、お酒を飲まずタバコも吸わない人なら、2〜3年間隔で行えばよいのではないのでしょうか。

便潜血検査の結果が陰性だったとしても、高齢者で便通異常(便秘)など気になる症状があれば、腸の内視鏡検査を、ぜひ行ってください。

がんの5年生存率



出典：公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計 2022」

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。